

平成23年度 第三学期終業式 校長の話

平成24年3月21日（水）

みなさん、こんにちは。

三学期は始業式で、「今を大切に生きる」「前向きに考える」「挑戦する」という話をし
てスタートしましたが、あっという間の3か月でした。しっかりとこの1年間を締めく
くることができましたか。また、2・3学年への準備、心構えができてきていますか。

3月1日の秀峰二期生の卒業式の式辞で、私が卒業生に話したことを思い出してくだ
さい。「自分を磨き続ける」ということについてでした。

みなさんをこれまで見て来て、みなさんは「無限の可能性を秘めている。」というこ
とを強く感じています。しかし、その可能性を生かすかどうかは、努力次第です。その努
力が、まだ足りません。「基本」を大切に「小さな積み重ね」を心掛けてほしいと思
います。そのことが、きっと、「夢を叶える」という大きなことにつながるはずです。
「努力する」＝「自分を磨き続ける」ということです。

本校もまた、みなさんと同じように、日々成長していかなければならないと考えてい
ます。来年度も、みなさんのために、さらに充実した取組を行なっていこうと予定して
います。その一つとして、国際化に対応していくための取組を充実することにしました。

現在、本校には、2名のALTの先生がいらっしゃいます。これは、県内では本校だけ
であり、みなさんはALTの先生との授業に熱心に取り組んでいると思います。また、英
語検定に積極的に取り組み、資格を得ようとしている人も少なくありません。皆さんも
知っての通り、最近では製造部門の海外進出が盛んです。小林工業高校卒業生も20代か
ら40代の方々が、この1年間に10名も海外の勤務に就かれているという現状があり
ます。また、最近、話題になっているTPPの問題では、農業も国際化に対応していく必
要があります。グローバル時代を担い、生きていかなければなりません。したがって、
みなさんには、高校時代に、将来、海外で働く機会が生じて来た時でも、慌てずに対応
できる基本的な英語力を身に付けておいてほしいと思っています。

私自身、50歳になってから、夫婦で英検の4級から挑戦しました。最初は、中学生
と一緒に受験でした。3級の面接でも中学生と一緒に、中学生から心配してもらったこ
とを今でも思い出します。準2級、2級と進んで、今度は、同じ高校の生徒と一緒に
なり、絶対に合格しようと共に近い、お互いをライバルと思い、頑張ったのを覚えていま
す。そのとき思ったのは、取りかかるのに遅すぎるといふことはないとは思いますが、
もっと早い時期に、できれば、みなさんと同じ高校生の時にもっと頑張っておけばよか
ったということです。したがって、みなさんには高校時代をもっと大切に、お互いに
ライバルを持ち切磋琢磨して、今を頑張してほしいと思います。

そこで、4月からの約1年間、コスタリカから男子の留学生を農業科2年に受け入れ
ることにしました。小林・西諸にあって、なかなか国際交流の機会はありませんが、ALT
の先生同様、留学生と交流することで、国際化に対応する第一歩となればと考えていま
す。詳しくは、新年度になってからです。楽しみにしててください。

さて、19日に、新1年生の合格発表があり、242名が合格しました。「秀峰ブラン
ド」を確立しつつある、新2・3年生が、いろいろな面で、新1年生の模範となり、こ
れまで以上に秀峰の充実・発展に努めるとともに、自らが成長していくように頑張って
いくことを期待しています。

そのためにも、まず、みなさんが春休みを有意義に過ごし、新学年を決意新たに迎
えてください。